

JAMCA ジャムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.40

2004年1月1日

発行
協会事務局
編集事務局全国自動車整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

自動車整備教育の国際性

ホンダイインターナショナル
テクニカルスクール 校長

全国自動車整備専門学校協会理事

伴 俊夫



をするケースもある。

多くのJAMCA加盟校と同様、我々の学校でも海外研修や短期ホームステイなどを実施しているが、国際性への学生の意欲の高まりを年々実感しており、充分に伝えてゆきたい。

繰り返しになるが、言語能力だけでなく、異なる文化や考えを認め合う他者理解力が何より重要であり、たとえ卒業後の進路が国内中心の販社であっても、多様な個性のお客様と接する際に不可欠な資質を磨くことになるのではない。

もう一つの国際化、海外留学生

文部科学省の調査では我が国への留学生数が初めて10万人を超えた。90%以上がアジアからという。政府目標の達成に20年を要したが、急速な伸びはこの4年間である。中でも専門学校へは昨年比23.6%と際立って増えた。しかしながら整備専門学校への留学生数は充分に把握されておらず、我が校の例でも留学生は優秀ではあるものの、毎年2桁に満たないのが実情である。言葉を変えれば、まだまだ潜在

的なニーズに充分応えていない可能性もある。

少子化の必然として、我が国の若年労働者

が不足する事態は避けられない。

JAMCAは若者に夢と希望を与える整備士の育成をめざし続けるが、外国人の就労も視野に入れる時が来るであろう。近年、留学生にまつわるトラブルも深刻化している。しっかりした資格制度に基づいた職業能力を付与し、雇用者も安心できる環境を整えることこそが解決策なのではないか。

整備士資格の国際化

多くのアジアの国々で、かつての我が国と同様、モータリゼーションの花が開きつつある。一方、整備などの技術は、より急速に最新レベルに追いつくことが求められる。自動車先進国日本の整備専門学校で学び資格を取得し、数年間の就労体験をもとに帰国し、母国の産業の発展に寄与することがより一般化すれば、本当の意味での国際理解が進むのではない。

そのためJAMCAの提唱する、一級整備士を軸としたファーストクラスオートモビルエンジニアが、アジアの若者たちにも夢を与え国際的にも価値あるものとなるよう願っている。

■ CONTENTS ■

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	インターンシップに期待
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記

国際化の時代と叫ばれて久しいが、一向に収まるどころか、近年我が国では一段とトーンが

高まりつつあるように感じる。これは殆どのビジネス分野で、人々がより切実にグローバルな視点と行動を求められることに加え、個人レベルの国際感覚に、なかなか自信を持てないことの現れではなかろうか。実際多くの人々が海外旅行を経験し、巷で外国人を見かけることも日常風景となったが、語学学校のフレーズではないが「異文化コミュニケーション」という点ではどうであろうか？ 語学力以前に、「他者理解力」という広く現代社会に求められる普遍的な要素が、真の国際性の獲得に不足しているのではない。

文部科学省の教育の構造改革においても、「画一と受身から自立と創造へ」という教育目標へ向かうために、国際性は最重要課題の一つと捉えられており、初等・中等教育ですでに広範囲の試みが進行中である。確実に若い世代の資質として根付くことを期待したい。

自動車は商品や技術だけでなく、他産業や地球環境へのインパクトも含め、現代の最もグローバルな産業の一つである。これまで主にメーカー主導で進んできたが、部品や中古車関連の分野でも、国際的なビジネス展開が急速に進んだ。しかしながら、販社・整備工場における販売、サービスは業務が国内完結しており、一般に国際化が進んでいるとはいえない。

一方、整備士の資格を取得した卒業生の中には、海外で活躍するものも少なくない。メーカーに就職し海外勤務